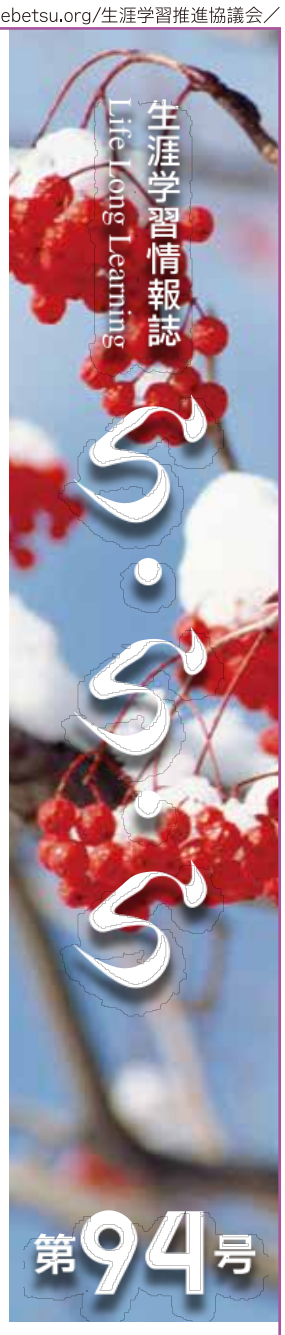
発行日／令和3年3月10日　発行者／江別市生涯学習推進協議会　編　集／広報委員会　連絡先／江別市教育委員会生涯学習課　〒067-0074　高砂町24-6　電 話 011-381-1062　FAX 011-382-3434　HPアドレス http://shougai.ebetsu.org/生涯学習推進協議会／



支援事業終了報告

第68回江別市女性大会・野幌女性協学習会を終えて

江別市女性団体協議会
事務局長　鈴木　智枝

この度の事業支援に感謝申し上げます。ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡がりにより、自治会の諸活動は制限せざるをえません。女性協も同様で、春から会場の休館等により中止が続きました。

「不要不急の外出は控えてください」

私達の活動は不要なのかを自分に問い、会では話し合いを積み重ねました。3密を避ける感染対策が提示され、検温、消毒、距離、換気の他にも気になることは共有し、工藤会長の「こんな時だからこそ前を向こう」と、実施の決断に至りました。

参加費無料、会場確保、内容を相談する中で野幌地区女性団体協議会との共同開催が決まり「元気を届ける」「心、癒されること」にぴったりの方々に出演を依頼し、即、快諾いただきました。

10月5日(月)野幌公民館ホールに於いて「街づくりはひとづくり」をテーマに市民ネットラジオパーソナリティを務める龍田昌樹さん三ツ井瑞恵さんが江別の若手経営者3組をゲストに、えべつの食材や人の魅力をトークで発信し、参加者からは「応援したい」と声をかけていただきました。

宮武玲子さんのピアノ演奏ではコロナ禍の今を重ねて「愛の讃歌」や生誕250年のベートーベン、聴力を失いながら作曲を続けた氏の生きる姿を「悲愴」に込めて演奏していただきました。

宮武さんの優しさと励ましのメッセージに、会場では涙を流す姿がありました。

大会への参加を我慢された方もたくさんいらっしゃいます。感染症の収束の後、元気な姿でお会いしましょう。

今大会が無事に終えることができましたのも、開催にあたりご支援頂きました野幌公民館の皆さまをはじめ、関係する方々のお力添えをいただいたおかげと、紙面をお借りしてお礼を申し上げます。「私たちも元気をいただきました」

感動のYOSAKOIソーランスペシャルステージ

江別まっことええ
＆北海道情報大学
代表　柏木　真紀子

2021年2月6日(土)。「江別まっことええ」として演舞したこの日のステージは、一生忘れられない貴重な経験や想いを積んだ6分間となりました。踊れなかったメンバーの分も踊りたい、よさこいの灯を消したくない、今日の演舞を6月の祭り開催に繋げようと、涙をためながら踊ったメンバーもいました。目と目を合わせながら「がんばろう」と伝えたメンバーもいました。マスクを付け、掛け声なしでも、心は熱く熱く燃やした演舞でした。

振り返ってみると、ここに至るまでの道のりには、いくつもの乗り越えなければならない山々がそびえ立っていたのです。まずは練習の難しさにぶつかりました。動画配信での個人練習や密を避けて人数制限、時間制限をしての全体練習。演舞する人数確保の難しさにも頭を悩ましました。職場や学校の意向により出場できないメンバーが増え、仕方のないことと、その度に隊列や大道具などの変更調整をしました。他にも会場での動きを細かくメンバーに周知して、感染対策に備えました。そして当日、2週間前からの体調チェックをクリアして、ようやく、本当にようやく札幌文化芸術劇場ヒタル入りを果たすことができたのです。

江別の皆様、いつかどこかで、元気な「まっこと」を観た時には応援してください。

※これは令和元年YOSAKOIソーラン祭りの写真です

江別で過ごして

江別の魅力や過ごして感じたことなどについて、3月をもって退職される豊幌小学校の校長先生にお聞きしました。

江別市に感謝

江別市立豊幌小学校
校長　岩倉　隆

今年度退職する5名の校長を代表して、江別市への感謝を述べさせていただきます。

私は教諭、教頭、校長として10年間江別市で勤務しました。

野幌小学校は野幌原始林が教室でした。学校近くの原の池に佇むと、カモの親子が草の陰から見え隠れします。鳥たちのさえずりが聞こえます。子どもたちと幸せな時間を過ごしました。

いずみ野小学校はPTA活動にC(コミュニティ)が入り、PTCAといいます。子どもが卒業しても、その後は地域の一員として活動してくれました。

豊幌小学校は地域と一体となった学校です。豊幌だからできる、少人数だからできる、創意ある学校づくりは、地域なくして成り立ちません。

豊幌とは、「豊かな幌向」とお聞きしました。農産物の豊かさだけではなく、私は心の豊かさも含まれていると思います。

いろいろな学校でお世話になり、江別市は開拓者精神にあふれ、新しいことに挑戦しようという気概にあふれた町だと感じます。勤務校は違いますが、きっとみんな同じように感じているのではないでしょうか。

「新田の実り夢みし江別の地語りつなげよ我らがもとき」江別市に感謝します。

コロナ禍における教育的最大サービス提供の試み

北翔大学短期大学部
教授　田口　智子

コロナ禍にあって、私たちは「安全」というキーワードを共通認識として、教育に取り組んで参りました。私が最も重視したことは、「困難な中でもできる教育的最大のサービスを提供する」ことです。主に、①学生が達成感を味わえる機会を提供すること、②少人数制対応できる企画を実現すること、③学生の不安・疑問を取り除く機会を提供すること、です。具体的事例として、①学生一人ひとりが中長期のキャリアプランニングを目標設定し自己管理にて取り組む機会を提供しました。途中対面式にて中間成果発表を行うことにより相互刺激し合う場という教育的相乗効果が生まれました。学生相互交流学習として、②シティホテルでのテーブルマナーや学内では江別物産販売企画を実施し、実践的学びの場を提供しました。また、オンライン学習で技術的操作重視に偏らないよう、学習過程の精神的不安や疑問を発信できるアナログ的対応の機会を随時提供しました。

ただ、オンラインに終始するのではなく、限られた環境下でできることを実現することにより、「我慢の学び・自己管理を強いられた学び」というマイナス要素からプラスの感覚を引き出せるよう努めた1年間でした。

発行日／令和3年3月10日　発行者／江別市生涯学習推進協議会　編　集／広報委員会　連絡先／江別市教育委員会生涯学習課　〒067-0074　高砂町24-6　電 話 011-381-1062　FAX 011-382-3434　HPアドレス http://shougai.ebetsu.org/生涯学習推進協議会／

「WITHコロナで活動中」

コロナ禍で実施している事業において工夫していること、講じている対策、または苦労していること、困っていることなど、会員の実情をお伝えし、皆さんと共有していきます。

新型コロナウイルスの防止対策を前提に

江別美術協会　吉田　ユキ子

2020年6月に予定していた「会員小品展」は、2度延期することとなった。3月開催予定の「春季小品展」を、状況判断から見直して、役員会の協議をLINEなどのフル活用で練り、公民館の理解も得られて開催することとしました。

実施要項の見直しは、3密回避、マスク着用、手洗い、手指消毒、物品の消毒、換気の基本的な事の他に、入口・出口を区分し、例年、会員各々で行っている搬入・展示を最小限の人数で行い、さらに開催時間も1時間短縮しました。

同様に9月の「本展」11月末の「歳末チャリティー展」も「会員小品展」の対策を活かして細心の注意を払い開催しました。

研修部の人物デッサン2回は、20分おきの休憩時間に窓とドアを開けて換気を頻繁にしました。

又、1月の総会は多人数集まりますから検温もして、窓を開けるのは大変寒い事ですが、皆さんの理解と協力を得て「絶対安全！！」と思える対策を全員で努力しています。

コロナ禍での短歌募集

江別短歌会　菅野　礼子

江別短歌会は毎年、中高生対象の作品募集を行っています。今年度はコロナの流行によって休校等があったため、作品を応募してもらえるだろうかという不安を抱きつつ高校5校、中学校8校へ応募用紙を送付させていただきました。結果としては高校2校、中学校6校から作品の応募があり、安堵と共に大変な中ご協力いただいたことに感謝の気持ちで一杯になりました。選歌時はマスク着用と手指を消毒し、机と机の距離を開け選考を行いました。また、入賞作品の賞状とメダルを各学校へ届けた際には、感染予防のため玄関先での受け渡しとしました。大変な状況が今後も続く事が予想されますが、生徒の皆さんが短歌を詠む機会を提供していきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症下での江別保健所管内栄養士会活動

江別保健所管内栄養士会
会長　石井　智美

昨年2月から新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、本会では定例の研究会は中止しましたが、20年来、年数回江別市中央公民館で実施してきた「男のチューボー」を、7月から11月にかけて5回開催しました。新型コロナウイルス感染防止に細心の注意を払っての実習は、家にこもりがちな日常において、大きな句読点となり参加者から好評でした。食べることは、ヒトを笑顔にすることを改めて実感しました。そして近年各種の災害が増えていることから、身近な食材を用い栄養があり、作りやすいをモットーにした防災食のレシピ本の作成をすすめています。未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況下ですが、ヒトとヒトを繋ぐ食の素晴らしさ、栄養摂取についての情報発信の活動を続けてまいります。

感染対策しながら活動継続

メディネット江別
理事長　中村　康治

私たちメディネット江別は、この度のコロナの影響で、活動の自粛を余儀なくされました。毎月の例会を今期はまだ1回しか開いていません。本来なら、4月～12月で、9回開いているところですが、できるだけ接触しないようにと対応しています。

撮影については、市民会館自主事業やスノーフェスティバルの中止などで、撮影の機会が失われています。その中で、恒例であった「ちょっと早いけどXmas」を無観客の中で、動画撮影を行い、HPにアップしています。「手話をまなぼう」シリーズの撮影は継続しています。9編だったものを現在20篇まで制作しています。コロナ禍の中、工夫しながら、感染対策に努め活動は継続していきます。

コロナだからこそ気がつくことができた生の舞台の良さと人と交流する大切さ

江別子ども劇場
井谷　照子

江別子ども劇場では、このコロナ禍の中、5つの作品を鑑賞しました。

緊急事態宣言を受け、予定していた会場を大きい会場に変更し実施しました。4月に予定していた笑福亭鶴笑の爆笑寄席「パペット落語あれやこれや」は、10月に延期しました。そして、緊急事態宣言解除後、初の例会「ピアノと歌とお話の世界」は、感染対策として大きい会場にすることで密をさけ検温、除菌を徹底し、観客席の間隔をあけて実施しました。また、演者と観客席も2メートル以上あけました。しばらくぶりの例会だったため、会員の参加率が高く、こうした機会をみんなが望んでいた様子がありました。親子で生の舞台を楽しみ、会員同士も再会できたことを喜び、交流できました。直接会うこの大切さと生の舞台を観るよさに気づくことができました。

困っていることは、食べることが好きな会員が困っています。ひなまつりで、好きなパフェを作ろうと楽しみにしていたのに、コロナで中止。夏の流しそうめんも、箸の除菌ができないため中止。絵本のお菓子を作って食べる「おはなしクッキング」も感染が増えたため中止になりました。こうしてみると私たちは、よく食べる企画をたてて、皆で楽しんでいたことが再確認できました。

これからも感染に注意しながら、できることを親子で楽しんでいこうと思います。

これからのイベント

◆江別子ども劇場
TEL011-383-9661
（月13:00-17:00 水10:00-14:00）
○地域公演「うしろの正面なあんだ」
（劇団風の子北海道）
日　時／2021年3月27日（土）
場　所／コミュニティーセンター ホール
費　用／親子ペア1000円・大人700円
　　子ども500円（3歳以下無料）
定　員／80名（新型コロナ対策実施中）
詳細は下記ホームページからご確認ください。
https://shimin.ebetsu.org/江別子ども劇場

〈生きること学ぶこと発行告知〉

会員の活動を紹介する冊子**「生きること 学ぶこと No.9」**を発行しました！
江別市生涯学習推進協議会に所属する会員の日頃の活動などを掲載していますので、ぜひご覧ください。
市内公共施設等に閲覧用として配置しています。
また、数に限りはございますが、1冊欲しい！という要望があれば差し上げますので、事務局までご連絡ください。

手話をまなぼう「子ども」

「QRコード」をスマートフォン・タブレット等のQRコードリーダーで読み取っていただくと、手話の動画がご覧になれます。今回は「家族」の手話です。

まなぼう Vol.11

江別家庭生活カウンセラーグループ

当グループは公益社団法人北海道家庭生活総合カウンセラーセンターの江別地区として、社協と江別市の相談業務に携わり、独自の勉強会を開催しています。

昨今、生涯学習推進協議会の谷川幸雄会長による「カウンセリングの理論と実践」の講演会を開催し、多くの学びを得ました。

これを糧に様々な相談に寄り添いたいと思います。

《編集後記》

2021年、丑年が始まりました。今年はのんびり穏やかな日々を過ごせることを願っています。おうち時間が増えましたね。SDGs（持続可能な開発目標）の中に、「公平で質の高い教育、生涯学習の機会を促進する。」という項目があります。当会の活動が住みよい未来につながることを信じて学習に励みましょう。

広報委員長　西懸　昭子